

「その可能性はすでに考えた」例会レジュメ

1. 作者紹介

井上真偽……いのうえまぎ。「恋と禁忌の術語論理（プレディケット）」で第51回メフィスト賞を受賞し、2015年デビュー。本作は作者の二作目。東京大学卒業。

2. 作品概要～「奇蹟」の証明

「不可能を消去して最後に残ったものが如何に奇妙なことであっても、それが真実となる」
人知の及ぶあらゆる可能性を全て否定できれば、それは奇蹟と言える。

→どんな荒唐無稽な馬鹿馬鹿しいトリックでも否定しなければならない

3. 作品の形式

・多重推理…一つの作品内でいくつもの推理が繰り広げられる。

① A：試行錯誤型 B：推理合戦型（対決型）

② A：事件併走型 B：犯人当て型

・多重推理型バカミス トリック（可能性）vs ロジック（否定）

・バトルゲーム的 次々と現れる刺客→ラスボス

4. アポリュトローシス集団自殺首切り事件

・新興宗教団体「アポリュトローシス」が、滝が潤れたことにより集団自殺。

→教祖と信者合わせて33名のうち、32名が死亡。

・ドウニは祠にて首切りの状態で見つかる。ギロチンは家屋小屋の近くで見つかる。

・外にはリゼしかおらず、彼女にはギロチン、少年の胴体、拝殿の鍵を動かすこと不可。

〈謎〉・誰がドウニを殺したか？ ・なぜドウニを殺したのか？

・どうやって遺体と凶器（ギロチン）を切り離したか？

5. 可能性の提示

〈凶器消失トリック～炙り家畜踏み車〉 元検察・大門さん

・水車…鉄製。滝枯渇により回っていない。中から回す踏み車。発電できる。

・家畜…全て食べられているのが妥当だが、いたかもしれない。臆病な動物。

○鉄製の水車の中に豚を入れ、外から火で炙り、豚に強制的に歩かせて水車を回す。

→ギロチンにロープを巻き付けてギロチンを回収。

〈水車トレビュシェット・ピンホールショット〉 リーシー

・家畜の慰霊塔（シーソーとなる棒）、水車の回転軸（支点）、爆破した岩（重り）

・「断熱性」と「衝撃吸収性」の特性を持つ発泡スチロール製の祭壇

○慰霊塔、水車、岩で簡易的なトレビュシェットを作って飛んだものの、高さ足りず祠にホールインワン→リゼは祭壇に突っ込み、衝撃が吸収された

〈君の神様はどこにいる？ 聖ウィニフレッドのクリーン発電〉 八ツ星聯

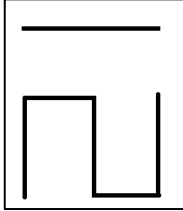
○護摩火の陰で 教祖→ご神体のミイラ・ドウニ→教祖 の入れ替わりトリック

○禊入り（3日間）以前に少年は殺されていた→冷凍保存しなければ腐る

→岩を井戸に落とし、重り発電によって冷蔵庫の電力をまかなう

6. 「その可能性はすでに考えた」

＜第三章「凶器消失」第三節「動物動力源によるギロチン刃回収の可能性」＞



○家畜は存在しなかった。(全て晚餐会で調理された。)

・なぜ「12」と分かったのか?→豚が20匹以内だったから。

→次は「12」の豚が食べられる番だった→ 最大 $20 - 11 = 9$ 匹

・33人全員に豚の足がもらえた。→豚の足最大4足。

→ $33 \div 4 = 8$ (匹) あまり1 (足) →少なくとも9匹必要。

＜第二章「死体移動」第四節「重力動力源による機械的射出装置を用いた可能性」＞

○祭壇にぶつからなければギプスが壊れ、祭壇にぶつかれば鏡が倒れている。

→どちらも無事ということは、この仮説は実現不可能。

・逆光の中ドウニの生首と目が合った。→祭壇の鏡が光を反射した。

→鏡が倒れていないということは、リゼが祭壇にぶつかったとはいえない。

＜第五章「アリバイトリック」第一節「遺体の冷蔵庫保存による死亡時刻偽装の可能性」＞

・祠の仔豚の隠し場所が二人だけの秘密だったこと。

・その隠し場所に水と食料が運ばれていたこと。

→○食料を運べたのは少年だけ。→少年が食料庫から食料を盗めたのは教祖の禊入りの間。

→教祖が禊入りより前に少年を殺したら誰も食料を運べなくなる。

7. 否定の否定

・満を持してカヴァリエーレ枢機卿の登場→ラスボスの趣向

・①最後の晚餐→禊入り ②食料の配達→最後の晚餐 ③禊入り→食料の配達

→探偵が個々にやってきた否定を1つにつなげると、時系列に矛盾が出る

・探偵の推理と同じ前提を元に行っているため、どこかの前提を変えようとする、反証の論理の誤りを探偵自ら認めることになる。

～憂思黙考 (ブラウスタディ)～

I A (仮説) → B (否定) II A (仮説) → B (否定) → C (否定)

・探偵が「可能性」を提示→立場が逆転

8. 最後に残された可能性

・「奇蹟」となると視野狭窄になる探偵と、「奇蹟」を信じないカヴァリエーレ枢機卿の二つの視点による止揚 (アウフヘーベン)

・「奇蹟」が起こったのではなく、少年が少女に「奇蹟」を信じさせるためのトリック

・「生と死の狭間にある者。生きながらに死んだ者。そしてすでに死した者。この三者の思いが一体となり、一人の未来ある少女に生きる希望を与えたのだ」

9. その可能性はすでに考えたでまだ考えていない可能性を考える

10. 感想